

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 森の宮福祉会	代表者	石塚 克哉	法人・事業所の特徴	基本理念「笑顔・まごころ・ハーモニー」を念頭に寄り添う介護、支援を職員一同取り組んでいます。「通い」を中心に「訪問」「泊り」を組み合わせたサービス提供を行っています。音楽を取り入れたリハビリやレクリエーションにも力をいれています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ハミングベル緑橋	管理者	小栗 健太		

出席者	コロナ禍のため書面にて報告を行い、意見を返信してもらう方式で実施。
-----	-----------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	アセスメントシートなどの様式を変更することでより深く利用者のことを理解できるようにし、状態にあった支援を行えるようにする。	以前よりも利用者の理解ができるようになったが、入職者や異動してきた職員に対して取り組みの周知が出来ていなかった。	努力されているように感じる。前回課題についての取り組みでほとんど出来ていない方へのフォローをどうするのか？	取り組みしている内容を簡潔にまとめ掲示する。新しい職員にも取り組み内容がすぐに理解できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症対策を踏まえて環境の再確認し、安心安全に過ごしてもらえるように改善する。	感染状況に合わせ感染対策をその都度検討し実施していた。閉鎖的にならないように近隣との関りを意識していた。	事業所が遠いので細かい事はわからない。感染対策をされたうえでも入りやすい雰囲気。	引き続き感染症対策を行いながら安全安心して過ごしてもらえる環境を整えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	感染症の感染状況を踏まえて地域との関わりを検討していく。	地域から案内があったイベントにはできるかぎり参加したが、事業所から地域にかかわる取り組みが出来なかった。	コロナ禍で接点を持てるイベントがあまりないが実施したイベントには参加されている。献血に協力して頂きました。	引き続き感染症の感染状況を踏まえて地域との関りを検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	感染症の感染状況を踏まえて地域との関りを検討していく。	感染症のため地域に出向くことができなかった。本人の住む地域の人と情報の共有をする機会を持つことができたケースがあった。	感染予防のため地域との往来がなくなるのは仕方がない。地域に出向く機会が減少しているが今後状況を見ながら対応して頂けたらと思う。	引き続き感染症の感染状況を踏まえて地域との関りを検討していく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	感染状況により集合開催か書面開催かを柔軟に対応する。書面開催の場合は、写真を使用するなどよりわかりやすい内容にしていく。	感染対策のため書面開催にて会議を実施した。事故内容の記載や広報誌を添付するなどわかりやすくなるようにした。	広報誌（月間みどりんぐ）で行事などの様子がわかる。紙一枚の会議をすることもあるので雰囲気が伝わる工夫は大切だと思います。	書面開催の場合は引き続きわかりやすい内容になるようにしていく。感染者数が落ち着いている場合は集合開催ができるように検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	消防訓練や災害時の避難訓練に加え感染症を想定した訓練を計画する。	日常の感染症対策に追われ感染症を想定とした訓練の実施ができなかった。	今年度も地域の防災訓練は実施されなかったです。災害時拠点となっていただけることを期待しています。	感染症が流行していることを想定した災害時の対応マニュアルを作成する。